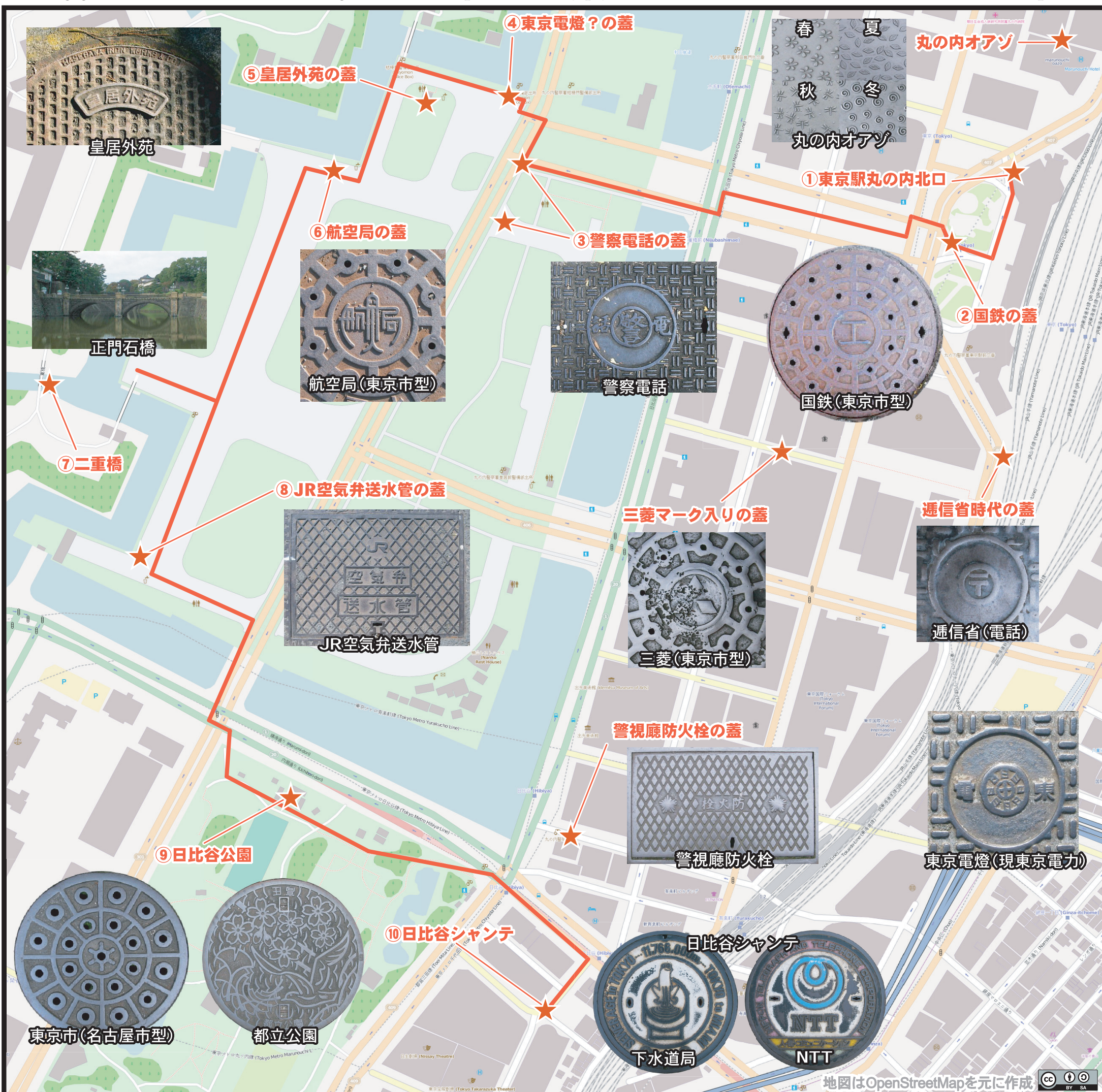


復元が進む赤れんが駅舎 ～ 東京駅から皇居外苑を散策



地図はOpenStreetMapを元に作成

CC BY SA

①東京駅丸の内北口

大正三年二月竣工、同十二月開業の東京駅赤れんが駅舎は、関東大震災で大きな被害は受けなかったものの、昭和二十年五月二十五日の米軍による大規模空襲で大火災が発生し、レング造壁とコンクリート造床の構造体を残してほとんどが焼け落ちてしまいました。戦後、しばらく後に本格的な修復工事を行うつもりで、四・五年持てばよいとされる応急的な修復工事がなされましたが、結局そのまま六十一年以上利用され続けました。紆余曲折を経て、平成十九年にようやく復元工事が開始され、現在外観は竣工当時の姿に復元されています。

②国鉄の蓋(東京市型)

国鉄では最初の所轄官庁であった工部省に因み、「工」の字をマークとして使っていました。この蓋も中央に「工」の字が入っています。レールの断面にも掛けられています。

③警察電話の蓋

「警」の字と「電話」の文字が入った蓋です。警察専用電話の設備が格納されているいたものと思われる。行幸通りの整備は、関東大震災後の震災復興再開事業で行われており、この蓋の設置もその頃かと思われます。

④東京電燈?の蓋

東京電力の前身で、戦前に存在した東京電燈のものと思われるマークの入った蓋です。ただし、蓋に入っているマークの足は8本ありますが、正式な東京電燈のマークは足が6本だったようです。三相交流発電機の形状が由来のようです。

⑤皇居外苑の蓋

トイレ周辺に「皇居外苑」と書かれた蓋があります。

⑥航空局の蓋

なぜか航空局のマークが入った蓋があります。

⑦二重橋

二重橋は、手前に見える二重アーチ構造の「正門石橋」ではなく、奥に見える「正門鉄橋」の通称です。二重橋の名前は、昭和三十一年に架け替えられる前の橋の形状が由来です。

⑧JR空気井送水管の蓋

JR・空気井・送水管と書かれた蓋ですが、位置的にJRとは関係ないものと思われる。

⑨日比谷公園

東京市章都章が入った、名古屋市の蓋がいくつか設置されています。東京都の花・木・鳥であるソメイヨシノ・イチヨウ・ユリカモメがデザインされた都立公園の蓋も見られます。

⑩日比谷シャンテ

日比谷シャンテ周辺には、NTTや下水道局の珍しいデザイン蓋が設置されています。

丸の内オアゾ

丸の内オアゾ内には、春夏秋冬をイメージしたと思われる4種類の蓋が設置されています。

通信省時代の蓋

電電公社以前に電話事業を行っていた通信省時代の蓋です。よく見ると、Tマークの左右に「電話」の文字も見えます。

三菱マーク入りの蓋

三菱グループの標準、スリッパタイヤが入った丸蓋と角蓋が、一枚ずつ車道の真ん中に設置されています。

警視廳防火栓の蓋

警察の紋章である旭日章(桜の代紋)が入った「防火栓」と書かれた蓋があります。東京消防庁は昭和二十三年に警視庁から独立する形で設置されていますので、この蓋はそれ以前の設置ということになります。丸の内周辺では昭和十一年から十六年にかけて防火水道が整備されているので、その頃の設置であると考えられます。ちなみに、東京消防庁をはじめとする消防のマーク(消防章)は五角形ではなく、六角形を基調としたデザインです。

東京市型
近代水道の父、中島鋭治の指揮
下で考案される名古屋市型
名古屋市の下水道布設を推進した
茂庭忠次郎の指揮下で考案される札幌市型
札幌をはじめ北海道各地でよく
見られる